

横浜市立岡津中学校
令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
かけがえのない生徒一人ひとりの自己実現を支援するために ○ ねばり強く学び続ける（知） ○ 善悪の判断ができ、相手の気持ちを大切にすること（徳） ○ 自他の生命を尊重し、心身ともに健康な生活ができる（体） ○ 地域社会の一員として行動する（公・開）	主体的に自分の思いを表現していく力 力を育みます。

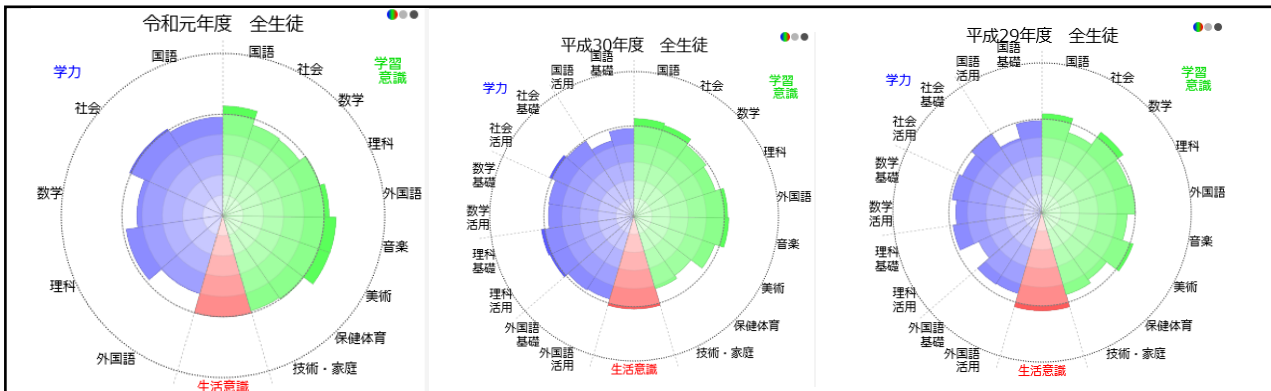
(2) 中期取組目標

中期取組目標
○ 『チーム岡中』として、全教職員同じベクトルで未来を担う生徒の育成に取り組みます。 ・ 個に応じた指導を充実させるとともに、生徒が主体的・対話的で深い学びに向けた授業を目指します。 ・ 挨拶を大切に、自尊感情・自己肯定感を高め、互いの違いを認め合う人間尊重の精神を育てます。 ・ 心と体を一体としてとらえ、学校生活や生涯を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を育てます。 ・ 社会的視野を広げ、社会の一員としての自覚と責任を高めるとともに郷土愛を育てます。 ・ 小中一貫教育を推進するとともに地域や家庭、関係機関との連携を深め、地域に根付いた、開かれた学校を目指します。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく 知	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。②小中・各学年における分析チャートや生徒・保護者による授業評価を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行う。
担当 学習指導部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

ここ数年の結果では、横浜市の平均との比較において学力の状況は全体として向上していたものの、昨年度は多くの教科で下回る結果となった。また、学習意識・生活意識は、横浜市の平均的な水準になってきたとみられる。結果を精査し、引き続き、授業改善に取り組み、基礎・基本の確実な定着と主体的・対話的で深い学びの実現を進めていくことが大切である。

(2) 教科学習の状況

横浜市の平均との比較において、課題が見られる観点には以下の通りである。（学年は令和元年度）

- 国語：1年「読む」2年「話す・聞く」「知識・理解・技能」3年『全観点』
- 社会：1年「思考・判断・表現」「知識・理解」3年「思考・判断・表現」「知識・理解」
- 数学：1年『全観点』2年『全観点』3年「技能」
- 理科：1年『全観点』2年「科学的な思考・表現」「観察実験の技能」3年「科学的な思考・表現」
- 外国語：1年『全観点』2年「聞くこと」「言語に関する知識」3年『全観点』

3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
国語	自分の考えや意見を的確に表現する能力	実生活や実社会に結びついた課題を設定し、課題を解決するための言語活動を学習過程に位置づけ、生徒自らが活用することを通して知識・技能の定着を図る。	目的や場面、意図等を意識して話したり、聞いたり、書いたり、読んだりすることを通して、思考・判断する場面を充実する。
社会	多文化への理解を深める中での確かな人権感覚・意識	各分野において見直しをもてるように、導入を工夫する。特に、歴史的分野では歴史的事象に対する関心を高めるために映像資料を活用する。	自分の考えを深めることができるように、社会的な事象に関する資料を活用した少人数による話し合い活動を計画的に取り入れる。
数学	論理的に思考し、説明する力	基礎・基本の定着を図るために、少人数指導等により数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるようにする。	実生活や実社会の事象を数理的に考察したり論理的に説明したりするなど、数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を心がける。
理科	科学的な思考力と情報化時代へ対応する能力	単元を通して、科学的な探究活動を進めながら基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	実験を計画したり事象を説明したりする活動を計画的に取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察の議論等において協働的に学ぶ場面を設定する。
音楽	音楽を通じた豊かな感性や情緒	生徒の実態にあわせて〔共通事項〕を焦点化した授業構成を行い、音楽活動の充実に必要な基礎的・基本的能力の伸長を図る。	生徒同士が音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開を工夫する。
美術	粘り強く制作する姿勢	生徒の現在までの学習状況や興味・関心を踏まえ、育成する力を明確にした題材設定をする。	生徒が主体的に授業に取り組むために必要な知識・技能の習得を目指す。見直し・振り返りを大切にした授業づくりを行う。
保健	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力	体力テストの結果をもとに、毎時間の授業に補強運動を行い、体力の向上を図る。	保健及び体育理論において、健康や環境についての知識や、スポーツの必要性や意義、学び方を深める。
技・家	よりよい生活を送るための能力と実践的な態度	小学校や他教科での既習事項や生活体験、興味・関心を把握し、生徒の資質・能力を踏まえ 題材設定を行う。	習得した知識と技術を積極的に活用し、意欲をもって追求し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返す。
外国語	確かな基礎力とコミュニケーション能力	UNIT 全体で生徒に身につけさせる能力を明確にして単元計画、評価計画を立てる。	AET とのコミュニケーションを図る場面等、具体的な課題を設定しながら生徒が受け身にならないような学習方法と工夫する。
道徳	規範意識、場に応じた判断力、他者の気持ちを尊重できる姿勢	自己の生活を振り返り、よりよい生き方の実現のために、規範意識を高め、場に応じた判断力を持ち、他者の気持ちを尊重できる生徒を育成する。	道徳的価値の把握に向けて十分に話し合い活動が行われるようにする。
特活	社会に自主的に参画する態度	学級活動や生徒会活動、学校行事の取り組みを通して、自主的に物事に取り組む態度の育成や規範意識の向上、そしてより良い人間関係の構築力の育成を図る。	学校行事・地域行事での小・中連携を視野に入れた異年齢交流の充実を図る。
総合	相手や目的・意識に応じて効果的に表現し伝える能力	相手や目的・意識に応じて効果的に表現し伝える能力を育成する。	探求的な学習過程を通して得られる学びの価値に気づき、自己有用感を持つ態度を育成する。
個別級	社会生活に必要な態度と能力、現在及び将来の社会参加や自立の基礎	生徒自ら自立活動の学習に主体的に取り組むために、一人ひとりの実態に応じた学習環境を整える。	個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図り、成就感を味わえるようにする。